

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 24 日現在

機関番号：34419

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25570020

研究課題名(和文)被差別部落女性をめぐる差別構造とエンパワーメントプロセスに関する研究

研究課題名(英文)The Structure of Discrimination against Buraku Women and their Empowerment Process

## 研究代表者

熊本 理抄(KUMAMOTO, Risa)

近畿大学・人権問題研究所・准教授

研究者番号：80351576

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：被差別部落女性へのインタビュー調査によって収集したライフヒストリーの分析を行い、被差別部落女性たちの状況を決定づけている条件、彼女たちが被る差別を生み出している要因とそれらが生み出される過程、差別からの解放としての主体性形成のありようと過程の解明を行った。部落解放同盟全国婦人集会が、被差別部落女性が抱える問題およびその問題解決に向けた政策対応についていかなる議論をし、被差別部落女性の主体性形成にどのような役割を果たしたかについての考察を行った。

研究成果の概要(英文)：The life histories of Buraku women who have experienced discrimination, as gathered through a series of interviews, are analyzed in this study in order to elucidate the conditions that determine the situation of Buraku women, the factors and processes that contribute to their discrimination, and the process of agency-formation leading to their liberation from discrimination. The National Women's Assembly of the Buraku Liberation League engages in discussions of the various problems confronting Buraku women and the policy responses they require, and this study looks into the role that this group has played in the agency-formation of Buraku women.

研究分野：被差別部落女性の主体性形成

キーワード：部落問題 女性 差別 ライフヒストリー 主体性

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者の熊本は、1990年代から、性・人種・階級に基づく差別が複合・交差する構造に関する国連における議論の展開を研究してきた。また、部落解放運動における性差別の問題を提起してきた。世界を見渡すと、アフリカン・アメリカン女性による、ブラック・フェミニズム、あるいは、critical race feminism と呼ばれる一連の思想的達成があり、性、人種、階級、ナショナリティなどのからみあいと社会的権力関係について、部落解放運動が学ぶべき知見を提示している。その知見に学びながら、部落解放運動における「差別」という概念に関する思想的展開を検証し、従来の「差別」論を再考することは、部落解放運動が展開してきた「差別」論の問い直しになるであろうから、本研究がこれまでの学術的背景を踏まえさらに「差別」概念を発展させることができると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究では、被差別部落女性たちの状況を決定づけている差別や排除の実態と、差別や排除からの解放としてのエンパワーメントのありようを当事者たちのライフヒストリーから解明する。

さらに、被差別部落女性の状況に視点を据え、従来の部落解放理論における「差別」概念や「エンパワーメント」概念を批判的に考察する。部落解放運動の中においては、性差別をはじめとするさまざまな差別が内包されており、部落差別撤廃が最優先課題として設定された差別概念の捉え方や政策対応では、その集団内における他の差別問題が軽視もしくは無視されてしまう。

被差別部落女性たちの状況を決定づけているのは、彼女たちが被差別部落住民であり、女性であり、多くが不就学・低学歴であり、低賃金不安定非熟練労働者である、といった

いくつもの条件であり、彼女たちはそのいくつもの条件のからみあいの中にのがれがたく位置づけられている。このような被差別部落女性の状況を考察するにあたっては、従来部落解放運動で使われてきた反差別論では不十分であり、これまでの「差別」概念ならびに「エンパワーメント」概念を再考する必要がある。

## 3. 研究の方法

### (1) 文献研究

ブラック・フェミニズム、あるいは、critical race feminism が展開してきた性、人種、階級、ナショナリティなどのからみあいと社会的権力関係についての思想的達成について文献研究を行う。

日本の部落解放運動における「差別」概念と「エンパワーメント」概念に関する思想的展開について、文献研究を行う。

### (2) 質的調査

被差別部落女性へのライフヒストリー・インタビューを行う。

## 4. 研究成果

(1) 本研究では、調査者である研究代表者が自らの立場性を明らかにしながら、調査対象者である被差別部落女性たちとの相互行為としてのインタビューを行った。

現場の実践者たちと連携しながら調査を進めていき、調査方法論についての検討を行った。

(2) 人類学や社会学の分野で用いられている agency 概念が含意する歴史的・社会的文脈や、多層的な共同性や他者との関係性といった側面を付加した概念を「主体性」と定義

し、被差別部落のシングルマザーの主体性形成のプロセスについて解明した。

発表論文では、被差別部落のシングルマザー一人ひとりが価値をおく理由のある生き方を選択するうえで、選択主体としての個人的条件と、主体をとりまく社会的・制度的条件とが相互作用し、被差別部落のシングルマザーたちの主体性形成に影響を及ぼしているプロセスを検証した。

agency 概念は、共同性を踏まえた個人の主体性の成り立ちを論じている。主体性を支える個人的条件は、社会組織や社会ネットワークなどから得られる共同性によって整備される社会的・制度的条件に支えられてもいる。

当事者の歴史的な運動によって創出・獲得し「制度化」していった資源、制度から排除されてきたがゆえの「制度外」の資源、関係性において排除されてきたがゆえの「インフォーマル」な資源、差別と闘って生まれてきた「つながり」による資源は、被差別部落住民たちが協働で培い紡ぎ蓄積してきた暗黙知・生活知・身体知・経験知・実践知である。被差別部落の共同性とはこうしたプロセスのなかで構築されてきたものである。その共同性の存在によって、被差別部落のシングルマザー一人ひとりの生き方の可能性や選択肢を広げるための個人的条件と社会的・制度的条件が相互作用しながら主体性が形成されていく過程を析出した。

(3) 部落解放同盟全国婦人集会が、被差別部落女性が抱える問題に対する認識と、その問題解決に向けた政策対応についてどのように議論してきたのか、被差別部落女性の主体性形成にどのような役割を果たしたかについて考察し、論文を執筆した。

部落解放同盟全国婦人集会は、被差別部落女性たちの経験や思いを理論化し、行動へと結びつける、また行動を理論化する、その学

習の場であった。「二重三重の差別圧迫」との言説は、一般と被差別部落との違いを強調する役割を果たしたのみならず、被差別部落女性たちの組織化や運動への参加を意識づける機能ともなった。部落差別や部落解放運動が優先されるなかで、くらしの中の実態を差別ととらえた要求闘争は、「主体性」の名のもとに、被差別部落女性たちが先導的役割を担い展開されていった。

部落解放運動が有する性差別体制への批判は、被差別部落女性たちの理論の低さや教養が身につけていないという問題に転化され、それを乗り越えるべく学習の必要性が強調された。「二重三重の差別圧迫」との言説は部落解放運動の性差別体制への批判もくみこんでいき、要求闘争を居住地で担う被差別部落女性の主体性形成が部落解放同盟全国婦人の焦点になっていった。「母」言説は、被差別部落という居住コミュニティおよび部落解放運動という居住活動コミュニティにおいて、それらが有する諸価値を次世代に伝達・継承し、次世代を育成・教育する再生産の機能として求められていくようになる。

女性としての共通項を模索し追求する被差別部落女性たちにとって、部落解放同盟全国婦人は、共感、対話、連帯の場であり、それらによるエンパワーメントや自己変革を言語化する場であった。怒りやあきらめ、劣等感から、差別や権利、政治に目覚めて立ち上がり、自分の力に自信をもつようになったのは、他者との関係性や相互性に基づく共感、対話、連帯があったからである。さらに、他地域の実践に学び、他者と共有することで、被差別部落女性たちは、自己を表現・主張することと、そのための学習に対する意欲を高めていった。

被差別部落女性の主体性形成は、差別との闘いや社会に対する抵抗運動を経験することで生み出されているものである。その主体

性は、他者との相互承認や尊重・敬意にもとづく運動への主体的な参加によって生まれる共同性との相互作用によるものであり、その場として部落解放同盟全国婦人があったと言える。

(4) 被差別部落女性へのインタビュー調査によって収集したライフヒストリーの分析を行い、被差別部落女性たちの状況を決定づけている条件、彼女たちが被る差別を生み出している要因とそれらが生み出される過程、差別からの解放としての主体性形成のありようと過程の解明に着手した。

(5) アフリカ系アメリカ人の女性たちが置かれている状況を分析するに際して、人種、ジェンダー、階級といった抑圧の形態を「追加/足し算」することは、ブラック・フェミニズムや critical race feminism においては、「追加式/足し算分析」と呼んで批判されてきた。アフリカ系アメリカ人女性たちが展開してきた、性、人種、階級などのからみあいと社会的権力関係についての思想的達成についての文献研究を行い、部落解放運動が学ぶべき知見を整理した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

熊本理抄、「被差別部落のシングルマザーの主体性形成に関する考察」、大阪府立大学『人文学論集』、33巻、159-183、2015年、査読有

<http://hdl.handle.net/10466/14353>

熊本理抄、「被差別部落女性の主体性形成に果たした全国婦人集会の役割に関

する一考察」、近畿大学『人権問題研究所紀要』29巻、21-56、2015年、査読無

[学会発表](計0件)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

熊本 理抄 (KUMAMOTO, Risa)

近畿大学・人権問題研究所・准教授

研究者番号：80351576